

# 平成28年10月23日開催 石巻市総合防災訓練 日本カーシェアリング協会活動報告

平成28年10月23日に宮城県石巻市において、地震と津波を想定した『総合防災訓練』が行われました。日本カーシェアリング協会では非常時の電気自動車の有効活用のために、全市的な停電を想定し、電気自動車を活用した充給電の訓練を行いました。市内復興公営住宅（吉野町）に設置された太陽光発電充電システムの活用訓練と、市内各所の避難訓練実施場所に電気自動車で駆けつけ、電気自動車から取り出した電気でコーヒーを淹れ振舞いながら電気自動車の防災利用の紹介を行いました。4年目となる今年度は初めての試みとして、カーシェアユーザーだけでなく一般の電気自動車ユーザーの方々や、電気自動車を所有している地元企業から参加者を募り、市内16か所での開催に至りました。

< 防災訓練実施場所（カッコ内は参加者人数※石巻市調べ） > 訓練参加者合計2,440人

|                                         |                                           |
|-----------------------------------------|-------------------------------------------|
| 1. 渡波小学校 (560人/三菱i-MiEV)                | 9. 中里小学校 (370人/三菱アウトランダー※一般)              |
| 2. 湊小学校 (40人/三菱i-MiEV※一般)               | 10. 向陽小学校 (250人/三菱i-MiEV)                 |
| 3. 湊中学校 (40人/日産LEAF※一般)                 | 11. 上釜地区 (100人/三菱i-MiEV、ミニキャブMiEVトラック※一般) |
| 4. 鹿妻小学校 (200人/三菱アウトランダー※一般)            | 12. 下釜第一町内会 (60人/三菱i-MiEV)                |
| 5. みなと荘 (60人/日産NV200※一般)                | 13. 大橋仮設住宅 (80人/日産NV200※一般)               |
| 6. 不動町町内会 (50人/三菱i-MiEV)                | 14. 駅前北復興公営住宅 (80人/三菱i-MiEV)              |
| 7. 石巻小学校 (60人/三菱ミニキャブMiEV)              | 15. 新西前沼復興公営住宅 (40人/三菱i-MiEV)             |
| 8. 貞山小学校 (400人/三菱i-MiEV、日産LEAF※一般、市公用車) | 16. 吉野町復興公営住宅 (50人/三菱i-MiEV)              |

## < 実施内容 >

- ① 吉野町復興公営住宅太陽光発電システムを使用した充電・給電訓練実施
- ② 三陸沖において最大震度6強の地震が発生、大津波警報が発令されたと想定した訓練開始

① 7：30～

太陽発電充電システムで充電訓練



② 9：00前後～

市内16か所（17台）で給電訓練



## < 協力 > ※敬称略

キーコーヒー株式会社・メリタジャパン株式会社・珈琲工房いしかわ・三菱電機株式会社・三菱自動車工業株式会社・Automotive Energy Supply Corp・宮城三菱自動車販売株式会社 石巻店・宮城エクスプレス株式会社・株式会社みなとモーター・東北三菱自動車販売株式会社 石巻店・石巻市総務部危機対策課

一般社団法人日本カーシェアリング協会 担当：吉澤・及川  
〒986-0005石巻市大瓜字鷺ノ巣45-1仮設大瓜団地集会所内  
TEL/FAX0225-22-1453

# <資料：訓練の様子（全会場）>

7：30～ 吉野町復興公営住宅太陽光発電システムを使用した充電・給電訓練実施



9：02 三陸沖において最大震度6強の地震が発生、大津波警報が発令されたと想定した訓練開始

16か所の避難訓練実施場所へ17台の電気自動車で駆けつける。非常時の電源として電気自動車から取り出し、その電気を活用して煎れたコーヒーを参加者へ振舞いながら、電気自動車の防災利用についての説明を行う。

- 1. 吉野町復興公営住宅団地会
- 2. みなと小学校
- 3. みなと中学校
- 4. みなと荘



- 5. 不動町町内会
- 6. 鹿妻小学校
- 7. 貞山小学校
- 8. 向陽小学校



- 9. 駅前北復興公営住宅団地会
- 10. 中里小学校
- 11. 新西前沼復興公営住宅
- 12. 仮設大橋団地



- 13. 渡波小学校
- 14. 下釜第一町内会
- 15. 上釜
- 16. 石巻小学校



石 巻 市

# 住民避難、炊き出し

## 総合防災訓練 土砂災害も想定

石巻市の2016年度総合防災訓練が23日、市内全域で一斉に行われた。「自分の命は自分で守る、みんなの命は地域で支える」をスローガンに①地震による津波・土砂災害などの災害危険区域からの避難訓練(ステージ1)②地域の自主的な災害応急対策訓練(ステージ2)を重点項目

に設定。地域住民が一体となって「自助」「共助」の意識を高め、地震、津波・土砂災害などに対する防災体制の確立と防災意識の向上に努めた。

学校や消防団、消防署、警察署、自衛隊、自主防衛会、町内会などが協力し、市民1万3390人(速報値)が参加した。



貞山小へ避難する親子ら

「午前9時すぎ、三陸沖を震源とする巨大地震が発生し、太平洋側に大津波警報、市内では震度6強を観測。住宅や道路が被害、ライフラインの機能も失われ、前夜までの大雨で一部土砂崩れも発生した」との想定で始まった。

市は大津波警報を防災行政無線、災害情報メール配信サービスなどで知らせ、市内全域に避難指示を出した。

貞山小では児童、山下中の生徒をはじめ、住民らが次々に駆け付け、地区ごとに指定の教室に避難。校庭では町内会による炊き出しや、自衛隊の炊き出し支援などがあった。児童が煙道体験や防災教室などを通して災害時での対応や心構えも学んだ。

亀山紘市長は「この地区はコミュニティの結果が固く、多くの方が参加してくれた。今後は個人の防災力が必要な上、こうした顔の見える関係性が大切にな

る。積極的に参加してくれたので非常に心強い」と講評を述べた。

今年津波の発生だけでなく、内陸部での住民参加を促すため、河南広瀬地区と桃生山田地区で土砂災害を想定した訓練を実施した。日本カーシェアリング協会や石巻レスキューサポート・バイクネットワーク、NTTドコモが電気自動車による給電デモンストラクション、通信訓練、災害伝言ダイヤルのPRにも取り組み、市民の関心を集めた。

# 石巻日日新聞

石巻日日新聞社  
〒986-0874  
石巻市双葉町8番17号  
電話 0225-95-5231  
ファックス 0225-94-4720  
郵便振替口座 02240-3-4424

## 石巻市総合防災訓練

# 市内一斉で「備え」確認

石巻市は28日、地震と津波を想定した市内一斉の総合防災訓練を行い、高台避難や地区単位の訓練で市民の防災意識を高めた。参加率(速報値)は9.1%で1万3390人が臨み、前年より2.8ポイント増えた。指定避難所以外にも家族間で決めた場所や地域に避難した可能性もあるため、市は自主防災会や町内会ごとに参加状況を調査し、後日、確定値(昨年10.4%)を出す。

チユード9.0)の大震が起き、太平洋沿岸部に大津波警報が発表されたと想定して始まった。今年はいさらに前日の雨で地盤が緩み、土砂災害の危険性も高くなっているという状況も設定し、内陸

大部での訓練にも力を入れた。市指定の緊急避難場所や高台に避難するステージ1、自主防災会や学校が企画する災害対応訓練に参加するステージ2で実施。「自分の命は自分で守る。みんなの命は地域で支える」とし、訓練を通して自助、共助の意識を高めることに高めた。

訓練は午前9時過ぎに三陸沖を震源に最大震度6強(マグニ

東日本大震災では児童や地域住民ら約260人が避難した貞山小学校には、防災無線を聞いた住民が徒歩で避難。5年7カ月前に記憶を戻しながら避難ルートを確認し、身の安全を確保した。その後、ステージ2で防災教室があり、登校した児童が学年ごとに煙道通過体験や警察・消防車両見学、防災マップの発表会などを行った。マップは、

多賀城駐屯地と山下中学校の生徒が吹き出し訓練を実施。日本カーシエリング協会は停電を想定し、電気自動車から電気を取り出す訓練を進めた。貞山小には約800人が集まり、震災の経験を思い起こしながら真剣に訓練に挑んだ。

震災があった時は保育所だったが、地震の後に雪が降ってきたのを今も覚えている」と話していた。一方、向陽小ではステージ2で避難所開設訓練を行い、住民が備蓄品の確認と使用方法を学んだ。新栄会(向陽町一四丁目)の田谷利明会長(68)は「町内会人口は約3千人でこのうち65歳以上が38%。歩くことが大変な人もいるが、住民間で声を掛け合い、多くの人に参加してもらって今後防災意識を高めていきたい」と気を引き締めていた。

列をなして素早く避難する住民(貞山小)



### 参加率速報値 9.1%

#### 2部構成で教訓生かす



避難所で仕切りの設置を体験(向陽小)

東日本大震災では児童や地域住民ら約260人が避難した貞山小学校には、防災無線を聞いた住民が徒歩で避難。5年7カ月前に記憶を戻しながら避難ルートを確認し、身の安全を確保した。その後、ステージ2で防災教室があり、登校した児童が学年ごとに煙道通過体験や警察・消防車両見学、防災マップの発表会などを行った。マップは、

# M9の地震想定 1万3000人が参加

## 石巻で総合防災訓練

石巻市は23日、東日本大震災の教訓を踏まえた総合防災訓練を行い、市民1万3000人以上が参加して日ごろの備えの大切さを確認した。

午前9時2分に三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の地震が発生した想定で実施。大津波警報を受けて市は避難指示を発令し、実際に

避難訓練で貞山小に集まる児童や近隣の地域住民



防災行政無線や災害情報メール配信サービスで避難を呼び掛けた。

貞山小(児童204人)には児童や地域住民が次々と訪れ、本番さながらに要援護者の安否確認をしながら教室に誘導した。校庭や駐車場では自衛隊や町内会による炊き出し、電気自動車から給電するデモンストラクションも行われた。

村石好男校長は「町内からの参加が多く、訓練を通して防災に対する意識が変わったと思う。準備段階か

いのちと  
地域を  
守る

ら町内会と話し合い、関係を深めることができたのも良かった」と振り返った。

市によると、速報値で1万3390人が参加。人口に占める参加率は9.1%で、昨年の速報値より1.8%上がった。市は町内会の報告も踏まえて確定値をまとめる。

市危機対策課の担当者は「今年度は学校や地区での呼び掛けを強化した。参加者が増えて良かった」と話した。

## 万が一に備え 住民連携

# みんなで自助・共助を意識づけ

## 市内一斉総合防災訓練 世代を超えて命を守る行動確認

「自分の命は自分で守る。みんなの命は地域で支える」をスローガンに、平成28年度石巻市総合防災訓練が10月23日(日)、市内一斉に行われました。三陸沖を震源とする大地震が起き、太平洋沿岸に大津波警報が発表されたと想定して、市指定の緊急避難場所や高台に避難する「ステージ1」、その後、地域の自主防災会や学校が企画した災害応急訓練の「ステージ2」に移行し、参加した市民一人ひとりが自助と共助の意識を高めました。



消火ホースを手にする子どもたち「思った以上に重い」と驚きの表情を浮かべていました。



貞山小学校



① 避難指示発令を受けて防災訓練開始。小走りで避難所に向かいました。  
② 山下中学校の生徒は自衛隊と協力し、炊き出し訓練を行いました。



広瀨小学校

はしご消防車やさまざまなタイプの消防車を展示。子どもたちは普段近くで見ることができない車両に興味深く見学していました。



▲広瀨地区では、第1次避難(その場で身の安全を守る)の後、第2次避難として各地区の避難場所へ避難。その後、第3次避難として広瀨小学校に集まりました。



▲はしご消防車による救援避難訓練では、伸びるはしごの高さに驚きの声が上がりました。



渡波小学校



① 津波が来た事を想定して、学校の屋上へ避難訓練を行いました。  
② 消防車を間近で見学しながら、真剣に話を聞いている子どもたち。  
③ 男の子も女の子も協力してバケツリレーを行いました。

### 電気自動車を活用した防災訓練 (吉野町復興住宅)



太陽光エネルギーを活用した電気自動車充電システムの利用講習。避難所での給電デモンストラーションが行われました。



① 校庭に集まった人々を対象に避難者名簿を作成。地域住民が一体となり防災意識を高めました。  
② 体育館で組み立て式のトイレメントの設置等を体験し、避難所運営に必要な知識を学びました。  
③ 有事には町内会で声を掛け合い、助け合って行動することを確かめました。



向陽小学校

